



EBENEZER
OPERATION EXODUS
エベネゼル出エジプト作戦

預言を 理解する

「48か月後に、世界はまったく異なった場所となるでしょう！
この恵みの時に、私の教会は、多数のアリヤーを助けるという召し
があるということを聞く必要がある・・・」

2016年1月23日 エルサレムにて与えられた預言の言葉

預言を理解する

国際



フィリップ・ホルムベルグ
Philip Holmberg
国際理事

私の手には、1926年にアメリカのマサチューセッツのスプリングフィールドで出版されたウェブスターニューインターナショナル辞典がありました。2600ページにもわたる重さ3.5キロもの辞典でした。

その辞典の1718ページには、「預言」という言葉の意味が書いてありました。

1. 預言者の働きと機能。a 神のみこころの啓示、または宣言。そこには、倫理的な教えや警告、慰め、勧めが含まれる。b これから起こることの宣言、前もって起こることを告げる c 預言の力 または、将来に起こることを前もって伝える

私は、この定義が非常に幅広いものであり、ただ将来に起こることを告げることに限定していないことをうれしく思います。この概念について非常にせまい理解しか持たない人たちがたくさんいます。多くのクリスチャンも同様だと思います。インターネットのある記述においては、聖書の三分の一がこの意味において預言にあたる、と述べております。

しかしもし私たちがウェブスター辞典の定義を用いるならば、私たちは明確に、聖書全体が預言であると言うことができます。それは、神のみこころの啓示が現されたものであり、警告や慰めや勧めのことばによる教えなのです。そして聖書のいくつかの箇所では、将来起こるべき出来事や主の御計画や目的やこれからの時代の行動についても書かれています。

Ⅱ テモテ 3 章 16, 17 節にこう書かれています。「聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。」

この広い範囲の預言と聖書の理解は、将来に関する実を結ばない考え方からの守りとなるでしょう。主は私たちが主とともに交わり、へりくだって、神のみこころを行っていくことを求めておられます。死んだ行いは主を喜ばせないのです。私たちは、死んだ行いでどのように生ける神に仕えることができるのでしょうか？いいえ、メシアの血潮は、私たちの良心を死んだ行



いからきよめるのです。神は、私たちをメシアとともに生かしてくださいました。神は、私たちを、信仰を通して、恵みによって救われたのです。それは神の賜物であり、行いによるのではないのです。(私たちが誇ることがないように) しかし、私たちは、神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。(エペソ 2 章 5 - 10 節)

しかしながら、主が将来に関して預言者を通して主が語られた箇所が聖書にたくさんあります。しかし、主はそれをどのようにされるのでしょうか？

その鍵は、ヘブル書 9 章 11 節にあります。「しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事からの大祭司として来られ、手で造った物でない、言いかえれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、」私は、このことがイエスが十字架の上で、神の完全な小羊として、私たちのために命を与えてくださった時に、永遠の重要性を持つことが、私たちの時間と空間を超えたところで、この創造のものではない幕屋において、同時に起こったのです。このことから、永遠の住まいである主が、過去も現在も将来も同時に見ておられると

そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」 創世記 15 章 5 節

信じることができるのです。

上の部分のみことば

そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」 創世記 15 章 5 節

ですから、神の視点から見ると、主は、私たちに明日起こることも、3000年後に起こることも同時に見ておられるのです。そして、神は出来事を見るだけではなく、動かれ働かれています。そして、助けのために御使いを遣わして、数えきれない方法で介入してくださるのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。(エペソ 2 章 10 節)

時折、神は、個人や家族やイスラエルや世界全体に対する意図や御計画を示してくださることがあります。「まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」アモス書 3 章 7 節この啓示はとても確かです。

その主な例は、メシアに関するすべてのみことばでしょう。つまり、誕生、人生、苦しみ、死、

よみがえり、昇天に関するみことばです。福音書には、「このように預言者によって書かれている」というような表現があふれています。

もう一つ本当に重要な事柄は、ユダヤ人の帰還とイスラエルの回復です。タナハにおいて、多くの箇所、主はただユダヤ人の帰還だけではなく、彼らに慰め、希望、励ましをもたらすことをあらかじめ語っておられます。

主は預言者とみことばを通して語られることにとどまらず、主はご自身のしもべたちをとおしても語られています。2016年1月23日に行われたエベネゼル国際大会において、主はアリヤーメッセージを教会に伝えていく重荷について、ポール・クラークをとおして預言の言葉が語られました。

「私の忠実なしもべたちを遣わし、アリヤーの働きのために彼らに油を注ぎなさい。時は短い。そしてしなければならないことはたくさんある。48か月後に、世界は全く異なった世界になるだろう。この恵みの時期に、私の教会はもうすぐ来る多数のアリヤーを支援する召しがあるということを聞かなければならない。・・・4年後には、世界は本当に違う場所になるだろう。そして私の教会はアリヤーについて聞かなければならない。・・・大きなチャレンジが来るだろう。しかし私の恵みは十分である。・・・」

そしてその48か月後の2020年1月23日に、中国政府は、武漢市全体が封鎖されました。

「預言をないがしろにははいけません。すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。」(1テサロニケ 5 章 20 - 21 節)

「・・・ところが預言する者は、徳を高め、勧めをし、慰めを与えるために、人に向かって話します。」(1コリント 14 章 3 節)

「・・・神を拝みなさい。イエスのあかしは預言の霊です。」(ヨハネの黙示録 19 章 10 節)

アリヤーのメッセージを教会に伝え続けましょう！

追記

ユダヤ機関の会長であるイサク・ヘルソグ氏は、毎日アリヤーに関心のある人たちから1000回以上もの電話での問い合わせがあると述べています。皆さんご存じのように、コロナウィルスパンデミックが、ユダヤ人も含めて世界中の人々に影響を与えています。

コロナウィルスの影響によって、反ユダヤ主義も増加しており、ユダヤ人が感染を広めているというような偽りにあふれています。イスラエルのワールドクラスの医療制度も問い合わせが増加することに影響しているかもしれません。

私たちのソーシャルメディアと折り通信の中で報告したように、イスラエルはアリヤーを希望している人たちに国境を開いた状態を保っています。しかし帰還した人たちは、14日間の隔離が必要となります。しかし、世界中には、自分の持ち物すべてを売り払って帰還の準備をしても、飛行機がキャンセルされてしまった人たちもいます。そのような家族を、私たちはできる限り支援しております。

神様はこの状況を通してさらに多くの御自身の民の帰還を導かれていく中で、私たちは今後さらに忙しい時を迎えると信じております。準備していきましょう！

ユダヤ機関、ロイター、
クリスチャンニュース機関、





隔離後に、大きなアリヤーの波

ロシア



ボリス・ヤシュコフ
Boris Vasyukov
ロシア代表

モスクワのリーダーであるボリスは、コロナウィルスがいかにロシアにおけるエベネゼルの活動に影響を及ぼしたかを説明します。

世界は困難な時代を体験しています。コロナウィルスは地上に住むほぼすべての人々を脅かしています。ロシアでは、このパンデミックの最初の兆候は3月中旬に起こりました。

その時には、何人かの方が陽性でした。今はさらに多くの感染者で出しており一番感染者が多いのがモスクワです。

他の国々でもそうであるように、不要不急の場合以外は、旅行をしないように要請されています。エベネゼルチームもこの条件を満たすことの必要性を十分認識しています。ですから、私たちもリモートワークをしてきました。それでも、ユダヤ人達は、このような時にも助けや特別なサポートを必要としていることに気が付かれます。

このような逆境の中においても、ロシアからのアリヤーは増え続けており、エベネゼルのドライバーたちは3月だけでも、イスラエルへの飛行機に乗るために214人のオリムを空港まで送りました。空港がハイリスク地区とされている時に、彼らを乗せて10便の飛行機が飛びました。ですから、ドライバーたちは非常に気を付けなければなりませんでした。

しかし、イスラエルへの多くの便は、自粛政策のために、その月にキャンセルされました。そのことにより多くのオリム達は大変な問題に直面したのです。彼らの多くが仕事もやめ、持ち物の全てを売り払っていました。ですから、飛行機がキャンセルされた時、彼らは行く場所がなかったのです。そのような家族の一つは、オルロフから来たイリナでした。その5人家族の中には、幼い子供と障害のある年長いた祖母もいました。そういうわけで、エベネゼルの1週間テルアビブのホテル

に滞在するための滞在費を支援することができました。自分達ではこのような状況に対処することができなかったことでしょう。

モスクワでの自粛政策が始まってまもなく、ホロコースト生存者協会の会長から支援を要請されました。なぜなら、ホロコースト生存者の年配の方たちの中には、食料品や他の日用品を買いにアパートを出ることができなくなった人がいたからです。協会は、たくさんの食料品ボックスを彼らのために作りましたが、それを彼らに届ける人がいませんでした。それで、エベネゼルのドライバーや地域教会のボランティア達が、これらの食料品を70人の生存者達に届けることができました。彼らは、クリスチャンが彼らのケアをしていることに深く感動していました。

3月末に、私たちのチームの一人がモスクワから400キロ北へ行ったところにあるキネシマへ行きました。その町はソ連の時代に作られた町で、そのころたくさんの織物工場が立てられました。しかし、ソ連崩壊のあと、工場は利益を生まないとして閉じられました。その後、多くの人々は仕事を失い、その後老朽化したこの町で、非常に貧しい生活を強いられていたのです。

キネシマにいる間に、エベネゼルチームは、130人ほどのユダヤ人がある地域のユダヤ人協会の会長であるリュドミラ氏に会いました。彼女は、60



写真

左：オリムを支援するエベネゼルのドライバーたち

右：キネシマの道路と生活



彼がロシアに来ようとしている

代の女性で、夫は脳梗塞で歩くことができない状態でした。また、病気の娘もいました。私たちは喜んで、彼女の町に住む困窮したユダヤ人家族に、食料物資を届ける要請に応えました。

毎回のユダヤ人家族訪問は、私たちエベネゼルチームの心に残る訪問となりました。彼らが助けた人の中にサーシャという人がいます。彼は十代のころにイスラエルへ帰還したがっていました。しかしそのころ重い病気にかかったため、長期に渡る治療を受けるためにキネシマに帰らなければならませんでした。その間に、彼は結婚しナターシャという娘が生まれました。残念なことに、何年か後にサーシャの病気が再発し、そのために妻は彼の元を去って行きました。それでサーシャは当時12歳だった娘を何とか一人で育てなければならなくなったのです。父親と娘はとても愛し合っていました。そしていつか一緒にイスラエルへ行くことを夢見ていました。

キネシマのもう一人の困窮したユダヤ人は、リユー

バという12歳の女の子でした。しかし骨粗しょう症のために5歳に見えました。ですから、学校でも教室移動のために誰かに介助してもらわなければなりません。彼女の両親は、彼女をイスラエルへ連れて行きたいと願っていました。彼らは、私たちが人道的支援物資を提供した時、そのことを非常に感謝していました。私たちはキネシマにおいて訪れた5つの家族のために祈りました。そして、「来年はエルサレムで会いましょう！」と伝えました。

隔離政策は、ロシアのほぼ全地で実施されています。この規則に違反した場合、高額の罰金を支払うか、逮捕されることもあります。私たちは家を出ることが許可されていませんが、オンラインで交わりをしたり、毎日お互いの働きのために祈りしたりしています。アリヤーの大波のために準備する中で、私たちの心は喜びに満たされています。ウィルスの規制が緩和された後に、この大きな波がすぐに始まることでしょう。

用語解説

アリヤー (Aliyah) :
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency) :
1929年C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム (Olim) :
イスラエルに帰還するユダヤ人



写真

上左：人道的食料物資をリュドミラに届ける

上右：ナターシャとサーシャ

下左：ナターシャのゲームの場所

下右：リユーバと家族が人道的支援物資を受け取る

KYIV KIEV AIRPORT

神の民は今も帰還

ウクライナ



バディム・ラボチー
Vadim Rabochiy
ウクライナ代表

コロナウィルスに関する政府による自粛政策により、ウクライナにおいてエベネゼルが企画していた、ユダヤ人協会のミーティングや、イスラエル領事との面接、またナーレ学習プログラムに参加希望の学生のためのセミナーなど、様々な活動がキャンセルされました。しかしオリムにとって最も困難な状況は、何よりも移動制限でしょう。

すでに帰還の飛行機の便を予約していて計画をしていた多くの人々にとって、この出来事は驚くことでした。3月末のある日、私たちはカルコフやクリボイ・ログやキエフのオリムから、すべての電車、バスや国内航空便がキャンセルされたため、キエフの空港への移動を支援してほしいという要請が来ました。その時に、私たちに残された唯一の解決の道は、オリムをエベネゼルのミニバスで送るということでした。しかしそのためには、エベネゼルのドライバー達が、およそ1000キロの往復の旅をしなければならないことを意味していました。

感謝なことに、エベネゼルチームは、オリム12人全員を空港に送り、彼らは無事時間内に到着することができました。国際航空はターミナルDからの出発でしたが、その時にはそこは空でした。そ

の時は代わりにターミナルFからの出発へ変更になっていたのです。ターミナルFには、多くのイスラエル人達が帰還のために集まっていました。すべての乗客とスタッフはマスクを着用していました。そしてスタッフの多くは、ゴム手袋も装着していました。その場所は、空港というよりもむしろ病院のようで、見えない隠れた脅威にすべての者がさらされているのだということが思い起こされました。エレミヤ書1章11節、12節が思いに浮かびました。「主のことばが私にあった。『エレミヤ、あなたは何を見ているのか。』私は言った。『アーモンドの枝を見えています。』すると主は私に言われた。『あなたの見たとおりだ。わたしは、わたしのことばを実現しようと見はっている。』」

私はこう思いました。「私たちはここで何を見ているのだろうか？」一方では、私たちは多くの国々で自粛を強いられ、何千人もの人が感染し亡くなっています。しかしまた一方では、このような恐ろしい状況のただ中にあっても神様は今もみことばに対して忠実であられます。神の民は今なお故郷へと帰還を続けているのです！



写真

左：5月10日にイスラエルへ向けて飛び立ったオリムの写真



還している

私は特に、クリボイ・ログから来たイリーナの話に感動しました。彼女はエベネゼルが彼女を空港に送ったことについて深く感謝していました。彼女には他に飛行機に間に合う手段がない状態だったからです。彼女はシングルマザーでした。彼女の息子はすでにナーレ学習プログラムでイスラエルへ行っていました。コロナウィルスの問題の中で、息子の近くに行きたい一心で、彼女はアパートを引き払ってすべての持ち物を処分し、最後のアリヤー便に乗って帰還したのです。驚くべきことに、彼女はイスラエルに到着後、隔離の期間の後にハイファに着いてみると、すでに彼女のことを知らない人たちが彼女のためにいくつかの家具と台所用品と食料を買って用意しておいてくれたのです。神様は本当に忠実なお方です！

もう一組の夫婦、ボリスとイナも神様が働かれるのを見ました。彼らは、自分達の娘がイスラエルでの勉強を終えてイスラエル国防軍での奉仕が終わるまで、何年かアリヤーするのを延期してきました。しかしついに彼らはウクライナを出る決心をしました。なぜなら、彼らの健康状態が思わしくなかったため、特別な治療を受けなければならず、これ以上アリヤーを延ばすことができなくなったからです。彼らの娘はイスラエルからカルコフへ戻って彼らの期間を助けました。しかし、彼らがもうすぐ飛び立つという時になって、彼らの

便がキャンセルされるという知らせを受けました。しかし、彼らの健康の問題があったために、彼らは最後の便に乗って帰還することができたのです。彼らは空港まで500キロもの道のりを旅してきましたが、やっとイスラエルへの帰還を遂げることができとても喜んでいました。

それから少し経って、この出来事を思い出していた時に、東ウクライナのユダヤ機関の会長の言葉が思いに浮かびました。「私たちは興味深い時代に生きています。それは、メシヤが帰ってこられるのを見る世代です。しかしながら、神のみこころを喜んで行くかどうかは私たちにかかっていることなのです。」この言葉は真実です！

3月26日のアリヤー便が飛び立った何日か後に、エベネゼルが、公共交通機関が制限されている状況にもかかわらず、オリムを空港へ運び続けるのか、と質問されました。「はい、もちろんです。」と私は答えました。「なぜなら、神様が私たちのこの時のために準備してくださっているからです。私たちを通してユダヤ人達に神様をあらわすためにです。ハレルヤ！」

右側のメモ 5月10日にウクライナからのアリヤー便が飛び立ちました。この出来事のショートビデオはこちらのリンクからご覧になれます。

bit.ly/AliyahfromUkraine



 YouTube



空腹の人に食料を届ける

イスラエル



ダニエル・モル
Danielle Mor
イスラエルユダヤ機関

コロナウィルス封鎖によって、イスラエルでは百万人以上の人が失業しました。移民がイスラエルに入り続ける中、ユダヤ機関はエベネゼルに対して、新しいオリムと最近失業したオリムに食料提供の支援をするように、要請をしました。そこで、私たちはハイファとテルアビブへ行き、困窮しているオリム達に、何百ものフードカードを配布し彼らを支援することができました。

支援を受けた人達や支援をした人達の反応は心温まるものでした。ユダヤ機関のダニエル・モルから次のような手紙を受け取りました。

「エベネゼルと特にジェレミーとその家族が、ためらわずにすぐ駆けつけてくださり、新しいオリム（隔離されていたオリムや、新しく到着したばかりのオリム）の支援をしてくださったことを感謝しています。彼らはみな深刻な経済的な問題を抱えており、彼らの支援のために届けられた食料カードによって、彼らはこの困難な時期を乗り越えることができました。

コロナウィルス危機が始まって以来、私たちは、エチオピアからの72人を含めて、1000人以上のオリムをイスラエルへ迎えました。

その全員は空港からまず隔離施設に直行します。そして彼らの多くは私たちのセンターを訪れ、私たちの献身的なスタッフの歓迎を受け、隔離期間に、アパートもすべての必需品も用意する手配をしました。

Beit・ Brodsky・ Tel Aviv と Eshion・ Haifa のエベネゼルプログラムに参加している独身の若いオリム達は、みな学生アルバイトを失業しても失業補償を受けることができないため、特にストレスをかかえていました。経済的なサポートなしでイスラエルで一人で生活しているため、彼らにはこの危機を乗り越えるための継続的な支援が必要となります。彼らの一人からこのような手紙が届きました。

「エベネゼルの皆さん、私のアリヤーを助けてくださり、隔離期間にリフレッシュと喜びを与えてくださったことを、本当にありがとうございました。神様がみなさんに報いを与えてくださり、二倍の祝福を受けることができますように。私も、将来は、誰かのために皆さんがしてくださったことをしたいと思います。

さらにこの必要のためにサポートをしてくださるなら、それは大きな祝福となるでしょう。このアリヤーの必要はこれからも大きくなるでしょう。

感謝します。皆さんの健康、信仰、力のために祈っています。」



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



EBENEZER
OPERATION EXODUS

エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替(名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働き of 名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。